

⑦ 教育機会確保法と新時代の最先端・誠実&メジャー感を！

⑤で机に並べた準備資料を説明し、概観をつかんでもらいます。

チア・マガジン等を示し、教育機会確保法のポイントを簡単に説明しつつ、チアのイベントパンフレット等を見せながら、全国的なネットワーキングの中で進めている状況、また進路先等を伝えます。

担当者の方は、法律の認識や文科省の通達について理解が不十分であるケースが、まだあります。「この方々は、孤立して異様なことをしているのでは」といった懸念や心配、不安を、いまだに多少なりとも持っておられるかもしれません。

マガジン・パンフレット等を提示してビジュアルなメジャー感を出し、数字や写真等で情報提供し、「多様な学習活動の重要性を鑑みる」といった教育機会確保法のポイントを解説し、マイナー感や不安感、違法の意識等をまず取り除けられればと思います。

そのために、チア・マガジンや国会議員に送ったチアからの封筒、コンベンション、サマーキャンプ、白馬などのパンフを重ねて紹介し、ビジュアル的にプレゼンすることをお勧めします。「この親の子どもたちだけではないのだ」「我が教育委員会の管轄区だけの特異な存在ではないのだ」ということを、まず実感してもらうことです。「法律についても聞いたことはあるが、詳しく知らないのは勉強不足だったかもしれない」「昨今、教育問題が激増している中で、このような選択肢もありかもしれない。条文にある通り、多様な学習の重要性を鑑みなければならない」と認識してもらえたら、とても感謝です。

ホームスクーリング人口は、アメリカでは200万人と言われてきましたが、この10年でさらに伸びているとのことで、現在は300万人以上とされています。具体的に示しながらプレゼンされると、教育委員会の皆さんも、一層、安心されると思います。

学校任せではなく、親の責任のもとに、いろいろなサポートを受けながら教育に励むという、教育の原点に立ち返る動きが、世界的に、そして日本でも広がっていること、日本でも法的に環境整備が進んでいることをしっかり認識してもらうことです。